

令和6年8月9日

各位

トモニホールディングスグループの令和7年3月期第1四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：中村 武）は、令和7年3月期第1四半期（令和6年4月1日～令和6年6月30日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島大正銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：板東豊彦）及び香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：山田径男）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス

（1）令和7年3月期第1四半期（令和6年4月1日～令和6年6月30日）連結業績

当第1四半期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息及び有価証券利息配当金の増加により資金運用収益が増加したこと等により、前年同期比2,167百万円増加して22,544百万円となりました。経常費用は、外貨調達に伴う外国為替売買損及び国債等債券売却損の増加によりその他業務費用が増加したことに加え、預金利息の増加により資金調達費用が増加したこと等により、前年同期比1,457百万円増加して16,159百万円となりました。その結果、経常利益は、前年同期比710百万円増加して6,384百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比948百万円増加して4,596百万円となりました。

当第1四半期末における主要勘定残高の状況は、総資産残高は、前年度末比1,421億円増加して4兆9,525億円、純資産は、前年度末比14億円増加して2,788億円となりました。また、譲渡性預金を含む預金等残高は、前年度末比1,136億円増加して4兆4,508億円、貸出金残高は、前年度末比437億円増加して3兆5,995億円、有価証券残高は、前年度末比694億円増加して7,566億円となりました。

		令和7年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	22,544百万円	2,167百万円
	経常費用	16,159百万円	1,457百万円
	経常利益	6,384百万円	710百万円
	親会社株主に帰属する四半期純利益	4,596百万円	948百万円
		令和7年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	49,525億円	1,421億円
	純資産	2,788億円	14億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	44,508億円	1,136億円
	貸出金	35,995億円	437億円
	有価証券	7,566億円	694億円
	自己資本比率（国内基準）	9.24%	0.01%

（2）令和7年3月期（令和6年4月1日～令和7年3月31日）連結業績予想

令和6年5月14日に公表しております令和7年3月期第2四半期累計期間及び通期の連結業績予想（経常利益及び親会社株主に帰属する当期（中間）純利益）につきましては、修正ございません。

2. 徳島大正銀行

(1) 令和7年3月期第1四半期（令和6年4月1日～令和6年6月30日）単体業績

当第1四半期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息、有価証券利息配当金及び株式等売却益が増加したこと等により、前年同期比946百万円増加して12,438百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、外貨調達に伴う外国為替売買損の増加等により、前年同期比66百万円減少して7,975百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が増加したこと等により、前年同期比204百万円減少して3,408百万円となりました。

経常利益は、前年同期比293百万円減少して3,073百万円となり、四半期純利益は、前年同期比278百万円減少して2,136百万円となりました。

当第1四半期末における主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人預金を中心に増加し、前年度末比355億円増加して2兆4,296億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比413億円増加して2兆5,696億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比129億円増加して1兆9,957億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は8.51%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比8百万円減少して36,963百万円、総与信に占める割合は1.82%となりました。

		令和7年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	12,438百万円	946百万円
	コア業務粗利益	7,975百万円	△66百万円
	コア業務純益	3,408百万円	△204百万円
	経常利益	3,073百万円	△293百万円
	四半期純利益	2,136百万円	△278百万円
	本業利益（外貨調達コスト控除後）	2,124百万円	△45百万円
	与信関連費用	357百万円	123百万円
		令和7年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	26,764億円	606億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	24,296億円	355億円
	総預り資産	25,696億円	413億円
	貸出金	19,957億円	129億円
	有価証券	4,094億円	273億円
	自己資本比率（国内基準）	8.51%	0.02%
不良債権	金融再生法開示債権額	36,963百万円	△8百万円
	総与信に占める割合	1.82%	△0.01%

3. 香川銀行

(1) 令和7年3月期第1四半期（令和6年4月1日～令和6年6月30日）単体業績

当第1四半期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息、有価証券利息配当金及び役員取引等収益が増加したこと等により、前年同期比935百万円増加して8,677百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前年同期比666百万円増加して6,807百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比548百万円増加して3,137百万円となりました。

経常利益は、前年同期比682百万円増加して3,172百万円となり、四半期純利益は、前年同期比841百万円増加して2,330百万円となりました。

当第1四半期末における主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比773億円増加して2兆255億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比794億円増加して2兆1,708億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比309億円増加して1兆6,127億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は9.89%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比327百万円減少して30,849百万円、総与信に占める割合は1.86%となりました。

		令和7年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	8,677百万円	935百万円
	コア業務粗利益	6,807百万円	666百万円
	コア業務純益	3,137百万円	548百万円
	経常利益	3,172百万円	682百万円
	四半期純利益	2,330百万円	841百万円
	本業利益（外貨調達コスト控除後）	1,919百万円	143百万円
	与信関連費用	△149百万円	△181百万円
		令和7年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	22,682億円	818億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	20,255億円	773億円
	総預り資産	21,708億円	794億円
	貸出金	16,127億円	309億円
	有価証券	3,455億円	421億円
	自己資本比率（国内基準）	9.89%	△0.03%
	金融再生法開示債権額	30,849百万円	△327百万円
不良債権	総与信に占める割合	1.86%	△0.06%

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部
株式会社徳島大正銀行 企画部
株式会社香川銀行 総合企画部

TEL：087-812-0102
TEL：088-656-1118
TEL：087-812-5132